

【学位論文審査の要旨】

1. 審査所見

1) 論文審査

副論文は、「挑戦」と「能力」のバランスを調整する作業療法（ACS）の効果をデイケア及び回復期リハビリテーション病棟でのパイロット研究で明らかにしたものである。主論文は、その知見を基盤に、ランダム化比較試験を用いて ACS の効果を検討したものである。

研究テーマに関する文献レビューから研究目的が明確化されていた。また、研究デザインは CONSORT 声明に準拠するなど適切に選択されていた。データに対して、線形混合モデルによる分析が適切になされ、倫理的配慮にも問題がなかった。結果では、主要アウトカムである Ikigai-9 等の改善に十分な効果量が認められ、ACS の効果が証明された。これらには新規性と作業療法へのレリバンスが認められた。

在宅における効果継続について検討する等の課題もあるが、博士論文としてのレベルには十分達していると判断した。

2) 最終試験

質疑応答では、「協業スタイルの効果ではないか」との質問に、「たしかに、繰り返し調整するプロセスが重要であったと考えられる」と答える等、質問に適切に答えるとともにアドバイスにも真摯に耳を傾けていた。また、プレゼンテーション及びコミュニケーション能力ともに十分で、関連した領域の知見についても深く理解していると考えられた。

2. ディプロマ・ポリシーに基づく評価

学位論文審査基準の項目（博士）	評価（合・否）
作業療法の発展に寄与する内容である	合
研究目的が明確で、適切な研究方法が選択されている	合
新規性があり、論理的に記述されている	合
十分な基礎学力と専門的知識を有している	合
適切な倫理的配慮がなされている	合
主・副論文が査読付き学術原著論文として公表・公表確定	合
十分な語学力やコミュニケーション能力を有している	合

3. 審査結果

本論文が博士論文に値し、申請者が博士(学術)の学位を授与するにふさわしい専門的知識と研究能力を備えていると判断し、合格とした。